



自治連だより

第28号



明けまして おめでとうございます

鳥取市自治連合会
会長 南部 敏

鳥取市自治連合会会員皆様におかれましては、ご家族お揃いで輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

さて、昨年は各地区会長様、町(区)会長様には連合会、地区、町内会開催の、多くの行事にご参加、ご協力いただきリーダーシップ発揮誠にありがとうございました。

国内に於いては三十年余り続いた「平成」が終わり「令和」と改元され新しい御代の時代となりました。

「平成」時代の日本社会は、バブル経済が崩壊、アメリカの大手証券会社リーマンブラザーズの倒産が更に追い打ちをかけ、世界的不況が長期化し低成長時代へ突入して行きました。

又、阪神大地震や東日本大震災、想定外の自然大災害、交通事故、殺人事件など多発した時代でもありました。

そして、ICT技術の進展により携帯電話、スマートフォンなどの爆発的普及により、顔を合わせ、言葉で

会話し、意思疎通を図るといようなことも少なくなりました。

令和の時代も人々の考え方は益々多様化して行くものと思われれます。更に少子高齢化、人口減少が進んでいきます。こんな時代だからこそ皆で協力し合い、助け合い、話し合い、多くの若者が集い、住み、職場があり、高齢者が安心して暮らし活力ある鳥取市でなければならぬと思います。

鳥取市は昨年十月一日市制施行百三十年周年、新本庁舎完成記念式典を挙行されました。誠に慶賀の至りでございます。

本年も行政と「車の両輪」の精神を大切に、連携し相互理解を図りながら魅力あるまちづくりに努めて参りたいと思っております。

各地区会長様、及び各町(区)会長様には鳥取市自治連合会に益々のご支援、ご指導賜りますようお願い申し上げます。年頭挨拶とさせていただきます。

青谷地区

住民が参画する まちづくりをめざして

青谷町自治連合会
会長 前田孝行

青谷地区は、山陰海岸世界ジオパークの西端にあり、平成三十年五月には北前船寄港地・船主集落として日本遺産に追加登録された歴史と自然豊かな所です。

青谷地区まちづくり協議会は、鳥取市が自治基本条例を制定した平成二十二年に設立されました。平成二十二年には青谷地区まちづくり計画を策定し、地区安全、地区再生、健康・体育、福祉支援の四部を組織して活動を始めました。しかし、十年近くが経過する間に、少子高齢化が加速化し、様々な新たな課題が生じてきました。

そこで、平成二十九年に「あり方検討委員会」を立ち上げ、青谷地区まちづくり協議会の課題を洗い出し、住民のニーズを探るためにアンケート調査を実施することにしました。



いきいきサロンへの出前講座

紙面の関係上、調査結果は割愛しますが、あり方検討委員会にお

いて分析・検討を行い、平成三十年十二月に、「住民が参画するまちづくり協議会をめざして」あり方検討委員会の提言としてまとめ、青谷地区まちづくり協議会だよりに掲載して全世帯に配布しました。その主な内容は、次のとおりです。

- ・部員の意識を高めるため任期を二年とする。
 - ・部員の選出方法の検討
 - ・若い人を入れる組織づくり
 - ・事業と予算
 - ・事業費の配分の検討
 - ・地域を上げての事業の計画
 - ・若い世代が活躍する部会の新設
- 住民の参画**
- ・スタンプ制の導入
 - ・自分、近所、集落、地区、行政の役割の明確化
 - ・住民自らが事業の立案
 - ・他団体との連携
 - ・部長会の開催
 - ・他地域との情報交換や情報提供

現在、鳥取市では協働のまちづくりガイドライン及び地区公民館の活用の基本方針の策定が進められている。そのためにも、あり方検討委員会での協議や提言を大切にしたい住民が参画するまちづくり協議会をめざしていきたいと考え



自転車教室

大和地区

地域の課題は 地域住民の力で!

大和地区自治会

会長 中村克彦

大和地区は、鳥取道鳥取ICと鳥取南IC間に点在する猪子、横枕、玉津、倭文、倭文西、長谷、赤子田の七集落で構成されています。世帯約二百五十戸、人口約九百人で、高齢化率は四十%以上です。

平成三十年十一月、日ノ丸バスから猪子・横枕線の路線バスを三月末で廃止するとの連絡が入りました。利用者の少なさによる赤字と運転手不足のためとのことでした。

小学生が通学に利用していることと、これから高齢化が進み、免許の返納者が増えることを考えますと、通学・通院・買い物等のための交通手段の確保は地区にとって不可欠です。

タクシー

会社等いろいろな機関に運行を依頼しましたが引き受けてくれる所が



大和ふれあいタクシーを待つお客さん



大和ふれあいタクシーの車内

なく、市の公共交通空白地有償運送支援事業補助金事業を活用して、地元住民による運行ができないか検討しました。

しかし、地元による赤字補填と運転手の確保が大きな課題でした。特に、赤字補填は人口の少ない大和では一戸あたりの負担が大きくなり理解が得られませんでした。

市と協議する中で、補助金の増額が決まり、地元負担を大幅に削減できることから地元の了承を得て、まちづくり協議会に「大和ふれあいタクシー部」を組織して運行することとしました。

運行は、オーダーにより、十名の運転手が輪番で行っています。

運行を維持

するためには、運転手の確保、利便性、料金等いろいろな課題があります。区長会とまちづくり協議会が協働してのまちづくりを進めています。



大和ふれあいタクシー部の車

久松地区

安全・安心で、明るく 活気ある豊かな地域づくり

住みよい久松地区をつくる会

会長 熊澤幸秀

久松地区は、鳥取のシンボルである久松山のすそ野に広がる古い街並みです。住みよい久松地区をつくる会は、安全・安心で、明るく活気ある豊かな地域づくりを進めるため、市との連携のもとに計画の策定及び推進を図ることを目的として、発足した会です。

総務企画委員会のもとに、生活安全部会・健康福祉部会・文化教養部会・次世代育成部会の四部会で構成され各部会のもとに町内会長会以下、地区の各種団体が構成する組織となっています。

住みよい久松地区をつくる会の恒例事業として年二回、鳥取市民の憩いの場



久松小学校児童による公民館まつりでの麒麟獅子舞

ある、ふれあい広場（久松公園周辺）清掃活動を実施しています。各町内から多数の参加があり、親子での参加もあります。久松公園では鳥取市による、国指定史跡鳥取城跡

の擬宝珠橋復元も平成三十年九月に完成し、城の正面玄関にあたる大手登城路の復元整備も進んでいます。ますます、本会も久松地区の環境整備に励んでいくつもりです。

十月十九日～二十日に久松地区第三十六回公民館まつりが盛大に開催されました。二日間にわたるイベントで、多数の催物があり、作品展では各町内から、絵画・工芸・書・写真・手芸など多数出品され、毎年の皆さんの注目を集める作品展です。また、芸能発表会が楽しい時間となります。北中吹奏楽部の演奏で始まり、子どもたちの空手・傘踊り・麒麟獅子舞、コーラス、ダンス等、地元中心のメンバーによるバンド演奏で盛り上がりつつ終わりました。

今後も住みよい久松地区をつくるために、地区コミュニティの活性化に努めてまいります。



清掃活動終了後の全員でのラジオ体操

湖山地区 湖山地区のまちづくり活動

湖山地区自治会
会長 上山良一

湖山地区の「まちづくり」の活動は、平成二十一年十月にまちづくり協議会に対応した『湖山版自治会』を設立したことから始まる。湖山地区にとつての「まちづくり」とは「地域住民による、安全安心・健康福祉・美しい景観のための環境改善運動を、自分たちが自律的に、継続的にやり続けること」であると考えている。この考え方は、従来からの地区自治会の事業目的と同一であることから、『自治会が唯一の代表機関として、まちづくりを積極的に推進するためにまちづくり委員会を内部に新設』。「人・情報・金」の流れを一本化し効率的な組織とし住民に分かりやすい組織とした。

湖山地区自治会は、同じ湖山地域住民をその活動対象としている十一の構成団体と緊密な連携のもと毎年の事業計画を策定実施している。その主な行事の一部を紹介する。

★校区民大運動会、健康ライフセミナー、ヒストリーポイント巡りウォークラリー、そうめん流し大会 ★文化祭・ふれあいコンサート、湖山学講座、年越し餅つき大会、★敬老会、配食サ-

ビス、集団検診 ★合同避難訓練、防災フェスタ、青パト防犯パトロール、四季の交通安全運動 ★天神山/大隈段草刈り、一斉清掃、等々。

次に、「まちづくり委員会」とその役割を紹介する。最近では、町内会長代議員の約八十%が毎年新人となる状況が定着し、地域コミュニティへの参加意識の希薄化が感じられてきている。従って、自治会運営を出来るだけ円滑且つ継続的にするため「元町内会長・元構成団体長等のまちな有識者」十名をまちづくり委員として公募している。この十名と役員十名の計二十名でまちづくり委員会を構成している。

・同委員会の**第一の役割**は、毎年の行事はだんだんマンネリ化する傾向にあるため行事の進行を見ながら『翌年度の事業計画策定方針』および『予算編成方針』を審議議決すること。

・**第一の役割**は、令和元年度から策定し取り組みを始めている「自治会体質改善活動計画」の重要項目を継続的に審議議決すること。

この体質改善活動とは、平成二十九年、三十年度に実施した三種のアンケート結果から『地域住人の地域コミュニティへの考え方・価値観等の変化が見て取れ、世代交代が進む中この傾向は今後も続く』と考え、自治会としてもこの変化を見据え、自らも変化すべきところは変化していくことをまとめ

た活動計画。

この体質改善活動は、一朝一夕で達成できるものではなく、湖山自治会として根気よく継続的に取り組んでいく所存。また今後の大きな課題としては、約四十%の未加入世帯への対応も少しずつ取り組んで行かねばと考えている。

富桑地区 交流・共感・共生の地域づくり

富桑地区自治会
会長 西川照夫

富桑地区は、近年高齢化が進み空き家も増えていく中、新しい家も建つなど、地域が激変しています。

一九九六年六月に市内で初めて住民の手で制定された「富桑地区人権宣言」の中で謳われている「交流・共感・共生」を合言葉に「より暮らしやすい富桑の地域づくり」を目指して取組んでいます。

富桑地区の活動は、自治会を中心に各種団体で、まず企画委員会で年間の事業計画し、そのもとに四専門部で実践運営しています。

主な事業は、五月に地域と小学校と合同の第四十二回富桑地区大運動会を、九月に伝統ある富桑小学校の相



富桑地区大文化祭

撲大会を支援しています。十月に第十五回富桑地区大文化祭を二日間開催し、毎年延べ千五百人近くの参加があり盛大です。十一月に

第二十三回富桑地区グラウンドゴルフ大会と第十一回富桑地区合同防災訓練を実施し防災リーダー(現在二十六名)を中心に、地震等いざ災害時には校区組織と各町内会が一体となり活動出来る体制をつくっています。一月に各種団体合同で新春懇話会を実施し、三月に各種団体の活動をカラーで二十ページの「富桑まちづくりだより」を全戸配布し、富桑地区の自治会を始め各種団体の一年間の活動が分かる広報紙を発行しています。

今後ともみんなの力で各行事の充実を図り、防災に強い富桑、安全・安心な富桑を目指していきます。



富桑地区合同防災訓練

令和元年度全国自治会連合会宮崎県宮崎大会

令和元年度全国自治会連合会宮崎県宮崎大会が10月30日フェニックスシーガイアコンベンションセンターにて盛大に開催されました。全国の都道府県役員、事務局合わせて1000名を超える参加があり鳥取県自治会連合会からも5名が参加しました。

第一部の式典では、開催地実行委員長、全国自治会連合会長の挨拶の後、開催地を代表して宮崎県河野知事からの歓迎の挨拶を受けました。内閣総理大臣のメッセージの後、大会宣言では、住民自治のさらなる発展と未来に誇れる地域社会の創造を目指し、目標達成に努める旨の宣言案が満場一致で採択されました。

全国自治会連合会表彰では、多年にわたり住民自治組織の発展向上に寄与された81名が全国自治会連合会会長表彰を受けられました。鳥取市自治連合会からは、中村克彦監事が栄えある賞を受賞されました。心よりお祝い申し上げます。平成30年秋と令和元年春の叙勲受章者20名が紹介されたあと、次期開催地を代表して広島県福山市の佐藤賢一会長から歓迎の挨拶があり第一部を終了しました。

第二部の記念講演では、「神話の源流みやざき」と題して大館真晴氏による講演があり日向の神話と古事記の興味深い話を聞くことが出来ました。

第三部の活動発表では、まず宮崎市の柳丸自治会の発表がありました。地区の総世帯数1178世帯の内90%以上がマンション等集合住宅に居住している地区で、現在280世帯の加入があり、加入世帯の8割以上を集合住宅世帯が占めているそうです。そうした中、「運動会・餅つき大会」「福祉活動」「防災・防犯活動」「環境美化活動」等の積極的な取組が発表されました。次に延岡市区長連絡協議会の発表があり、現在加入率75.3%で、加入促進対策として、ポスターの作成・宅建業者と協定締結等色々対策を講じてきたが遅々として進んでいないそうです。

今回の大会の大きなテーマは、加入促進と防災対策だと感じました。災害が毎年のようにやって来る中、大きな災害時にこそ、一番の助けとなるのは、自治会等の住民自治組織であり、多発する大規模自然災害にたいして、地域の住民同士の絆を重視し、行政機関と連携し、住民の生活を守るための活動に取り組んでいくことが重要だと再確認しました。

(報告 副会長 土橋周美)



東郷地区公民館まつり

東郷地区は、千代川水系有富川に沿って、南北約八キロ東西二キロに九集落二百八十世帯からなる、山あいののかな田園地帯です。

地区内には東郷工業団地が唯一ありますが、農業が主体の地域であります。平成二十二年三月に策定された東郷地区むらづくり計画は、地域の人が「安心して暮らせるむら」、「住んでよかつた」と誇れるむら、「活力あるむら」の実現であります。小地域だからこそで

東郷地区

魅力ある
住みよいむらづくり

東郷地区区長会
会長 有田寿行

きる連帯意識をもって、「むらづくり基本目標」を掲げて、東郷の魅力発信に取り組んでいます。地区敬老会等を通じて、子どもから高齢者まで参加し共に支えあう地域社会の実現を目指す「みんなで支えあう福祉のむらづくり」、地区夏まつり、公民館まつり等を通じて、東郷地区で暮らす一人ひとりが主体性をもって住民相互の交流と地域コミュニティを目指す「活力ある地域コミュニティでむらづくり」、地域総ぐるみで開催する秋季大運動会等を通じて、誰でも参加しやすく健康づくりの機会を提供する「老いも若きも健康づくりでいきいきむらづくり」などに取り組んでいます。

令和四年八月に、可燃ごみ処理施設の神谷清掃工場が東郷地区から移転します。今後の課題は、神谷清掃工場の跡地利用も含めた東郷地区の将来のビジョンづくりです。現在、みんなが主役で、みんなが描く東郷の「未来予想図」を策定しています。少子・高齢化が進む東郷地区の活性化策になればと思っております。



東郷地区夏まつり



令和元年度 三市姉妹交流会報告

今年度の姉妹交流会は9月25日（水）岡山市東区役所多目的ホールにて開催されました。出席者、岡山市連合町内会19名、姫路市連合自治会25名、鳥取市自治連合会16名の総勢60名の参加者となりました。10時30分より主催者側会長の開会の挨拶、鳥取市自治連合会会長、姫路市連合自治会会長挨拶と進み、来賓岡山市東区長の挨拶で研修会へと入って行きました。共通テーマとしまして「地域の活性化策について」という課題に沿って持ち時間10分程度で各市の発表がありました。



岡山市連合町内会では町内会の活性化を検討するため今年から「町内会活性化検討部会」を発足させ加入者の促進、イベントの推進、人集め、後継者育成など長期的に活動をしていく。そして3月に岡山県宅建協会・岡山市と協定を結びマンションやアパートの入居者へパンフレットを配布し加入促進を行っているような活動報告でした。

続き鳥取市自治連合会からは田中雅勝副会長より、地元末恒地区の活動状況について、掘り起こしと活用による人材の「地産地消」をめざしてというテーマで地域の紹介、また地域の事をあまり知らない人が多いのではないかなどという事から、次世代につなげるために地域の文化、環境、歴史などを学び「ふるさと末恒」を知ることで誇りと愛着を持ち、良いところの再発見で活力ある地域にし、人材育成、活力の創出、連携の効果を期待したいと「すえつね誌」を発行したと発表がありました。さらに、利活用を図るために映像化に向けて取り組んでいます。

3番手で姫路市連合自治会により「自治会を取り巻く諸課題の解決に向けて」のテーマで色々な課題、問題を取り上げ発表されました。

地域の安全・安心確保の為に課題、生活環境の再整備、自治会役員・民生委員・消防団員等のボランティア活動の高齢化・各種団体への加入率と急激な組織力の低下など、どこも抱えているような問題が沢山出ました。質疑応答の時間も設けてありましたが時間も取れず終わったような状況でした。次年度の開催は鳥取市です。

（報告 副会長 福田 正美）

多鯨ヶ池周辺の歴史を振り返りながら、地域の観光資源として当時の賑わいを少しでも取り戻すべく観光地としての景観保全活動に加えて、人を呼べる観光地としての活性化を目



鳥取砂丘は全国的にも有名な観光地であり、ジオサイトとして自然環境の素晴らしさに加えて近年では砂の美術館の開設やジオパーク認定などで、毎年百万人程度の観光客が訪れますが、鳥取砂丘と目と鼻の先に位置する「多鯨ヶ池」はその風光明媚な魅力に反して極端に来客が少ないのが現状です。

しかし、多鯨ヶ池も山陰海岸ジオパークの鳥取市の代表的な見どころであり、鳥取砂丘に隣接した風光明媚なおアシ的な池として、以前は「ボート遊びができる観光名所」でもありました。

浜湯山・多鯨ヶ池活性化委員会では多鯨ヶ池周辺の歴史を振り返りながら、地域の観光資源として当時の賑わいを少しでも取り戻すべく観光地としての景観保全活動に加えて、人を呼べる観光地としての活性化を目

福部地区

多鯨ヶ池周辺の活性化の取り組み

濱湯山・多鯨ヶ池活性化委員会

会長 飼牛 明



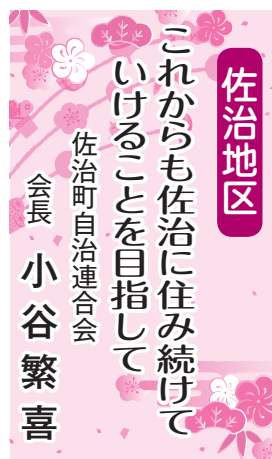
多鯨ヶ池周辺の清掃

的に発足しました。

主な活動としては、多鯨ヶ池周辺の草刈りや水路清掃等の環境整備、子ども農園の開設、弁天宮にトイレの新設、湖畔の老朽化したボート小屋を撤去し、跡地に多鯨ヶ池が一望できる「湖畔デッキ」の設置などを行ってきました。また、平成三十年度からは夏に「多鯨ヶ池手づくりいかだレース」を開催しており、今年も十三チームが六百メートルのコースで競いました。

昨年度は、これまでの活動が評価され、鳥取県が地域を元気にするための県内の優れた地域づくり活動を表彰する「トットリズム活動表彰」の一般部門で優秀賞を受賞しました。

今後も、多くの方に訪れていただき、多鯨ヶ池の魅力を知っていただけるよう、地域ぐるみで取り組んでいきます。



現在、佐治町で進めている「小さな拠点事業」の取り組みと併せて新たな地域運営組織の検討状況について報告させていただきます。

佐治町の人口は、平成十六年合併時の約二千八百人から平成三十年までの十四年間で約九百人、率にして三十二%減少し、現在では約千九百人となっています。また、六十五歳以上の高齢者の割合も四十八%に達しています。

過疎と少子高齢化が進行していくと、生活に必要なサービスや機能を維持していくことがだんだんと困難になっていくことが予想されます。

「小さな拠点事業」というのは、何か施設や建物をつくるものではなく、これからも暮らしを守り地域コミュニティを維持し、持続可能な地域づくりを目指して住民主体で新しい地域運営の仕組みづくりに取り組んでいこうとする事業です。

佐治町では、三年前から地域で検討組織を立ち上げて協議を重ね、中学生以上の住民を対象とした生活状況等に関するアンケート調査結果やシンポジウム、各年代別座談会などを通じて出さ

れた意見やアイデア等を基にして、昨年三月末に住宅周辺の雪かきや簡易な農林作業、家事支援代行サービスなどの「地域助け合い事業」の計画を取りまとめました。

また、この運営組織として昨年八月末に特定非営利活動法人（NPO）として設立しました。このNPOは、自治連合会やまちづくり協議会をはじめとして町内のほとんどの集落に会員として加入していただいています。これらの取り組みは、これまでのどちらかと言うと「行政まかせ」や「行政頼り」から、できることは可能な限り住民主体で取り組むことへの転換です。そして、地域づくりに関係する事業は、基本的にこのNPOで一括して取り組むことで、「同じようなことをいろいろな団体がそれぞれにしている」こと等の弊害が少なくで



H31.2シンポジウム

きることや「個々の事業への人的な支援や連携等」ができやすくなることなどが期待できます。

それから、将来、NPOさじ未来とまちづくり協議会や地区公民館、自治会等を含む効率的かつ効果的な新たな地域運営組織のあり方についても検討をおこなっています。特徴としては、地区公民館を地域で自主的に運営し、地区公民館とまちづくり協議会、自治連合会を含めた住民主体による新たな地域運営組織を構築していくような姿を考えています。

結びに、「佐治はもう終わっている」とあきらめてしまえば、もうそこから前には進みません。そうではなく、結果は別として、できることから少しずつ具体的な行動に移していくことが地域の将来にとって重要なことだと思います。「自分には関係ない他人事だ・誰かがしてくれる」ということではなく、「自分にも何かできる事がないか」という、思いや意欲の醸成を図り、多くの住民の方に地域助け合い事業に参加していただくこと

で、「高齢者世代には、住み慣れた地域にこれからも住み続けていけることの安心を高め」、「現役世代には、地域と関わり感謝され頼りにされることで生きがいや糧（希望）につなげ」、「子供世代には、このような地域の仕組みや姿を通して佐治に未来（夢）を見いだし、佐治で暮らしていこうという思いを育む」ことなどの目標をもつて、あきらめずに頑張っていきたいと思っておりますので、応援やご支援、ご協力をよろしく願います。

祝 総務大臣表彰

渡邊勤治郎 前会長

鳥取市自治連合会会長として、長年住民自治活動の推進にご尽力された功績により、令和元年度自治会等大臣表彰（全国自治会連合会推薦）を受賞されました。

後記 編集

令和元年も二年続きの大災害に見舞われ、甚大な被災状況や復興半ばの過酷な状況に心が痛みました。被災された地域の皆様に心からお見舞いを申し上げます。

さて、少子高齢化・人口減少・過疎化問題は喫緊の課題ですが、これらは「コミュニティや防災力とリンクしています。地域の特性を活かした「安心安全で誇れる地域づくり」が共通テーマの自治会の役目は益々大きい。

（広報委員長 田中雅勝）